

## 銀行業界～金融政策の転換、不良債権処理を控え収益・財務強化が重要に～

### ◆市場動向～金融緩和で規模拡大が進むも、収益率は低下傾向～

#### 17年8月末の業界規模（前年値修正済み）：

総資産：239兆元（前年同期末比11%増）、貸出残高：122兆元（同13%増）、預金残高：167兆元（同9%増）、商業銀行の純利益（16年通年）：1.6兆元（前年比4%増）

中国のマネーサプライは世界最大の規模。この金融市場の中核をなす銀行の規模も世界有数だ。景気下支えを目的に、当局は16年も金融緩和を推進。金融緩和策を追い風に銀行融資は概ね1割以上の伸びが続く。一方で景気低迷と金利自由化による競争激化を背景に融資業務の収益力は引き続き低下。預金残高の伸び率もやや減速した。また、不良債権も増加し、その処理も重しになった。それでも各行は引き続き手数料ビジネスやネットバンキングの強化などに努め、業界全体では16年、17.6期（中間）で最終増益を確保した。

なお、金融安定化と改革の深化、実体経済への貢献を重視する当局は、デレバレッジ（負債圧縮）を柱とする構造改革を今後も強める構え。金融政策も徐々に引き締めに転換する見通しだ。企業、銀行、政府とも引き続きバランスシートの調整を迫られるとみられ、銀行業界は“体力勝負”的相が強まろう。

### ◆業界の特徴～経済活動の「心臓」を担う最重要セクター、政策動向が重要～

#### 主力事業面：

銀行は経済活動の“心臓”といえる最重要セクター。メインプレイヤーは大型国有銀行であり、貯蓄率の高さを背景に預金が主要な資金調達手段だ。中小の銀行はインターネット市場からの調達も重要で、短期金利の動向が調達コストを左右する。運用面では同じ国有企業向けの貸出比率が高く、また、農業・中小零細企業向けも多い。ただ、リスク管理に課題が残り、地方政府向けなどで焦げ付きリスクも。個人向けの融資は住宅ローンが主力。銀行の利ザヤは金利自由化や競争激化で低下圧力に晒されている。また、レポ取引を含む債券市場での運用益も重要な柱であり、長期金利の動きが収益に影響する。この中で各行はプライベート・バンキング、ネットバンキング業務の強化などを通じ、手数料ビジネスの拡大を目指す。その一環で「理財商品」（資産運用商品）が広く販売されてきたが、この取引の調達・運用の多くはバランスシート上に反映されず、銀行の金融仲介機能の枠外にあることから、“シャドーバンキング”と呼ばれている。

#### 国際面：

多くの外資が進出するものの、国内市場のシェアは小さい。一方、地場系大手は有力外資を戦略投資家に招き、先進的な金融ノウハウを吸収して競争力を強化。M&Aなどを通じ国際業務の拡大に努めている。

#### 政策面：

規制は基本的に厳しいが、ここ数年で市場化が進み、基準金利や預貸比率の規制は撤廃された。政策の主眼は金融システムの安定とされ、中央銀行は目安としての基準金利の上げ下げ（利上げ・利下げ）、預金準備率や自己資本比率の調整、公開市場操作、貸出ファシリティなどを駆使。さらに政府は近く金融安定発展委員会を創設する方針だ。

### ◆主要企業、主な取扱銘柄～国有大手による寡占、業績の伸びは小幅に～

中国の銀行業界は国有セクターによる寡占が続く。主要12行の総資産は全体の約6割を占め、集約度も比較的高い。各行は金融緩和や貸出増加、手数料ビジネスの拡大などを背景に、16年、17.6期（中間）で総じて増益を確保した。もっとも、競争激化による利益率の低下、不良債権処理の負担などが重しに

なり、引き続き業績の伸びはわずかだった。

**資産規模でみると、四大国有銀行が業界をリード。**最大手は中国工商銀行（01398）。これに中国建設銀行（00939）、中国農業銀行（01288）、中国銀行（03988）が続き、交通銀行（03328）と中国郵政儲蓄銀行（01658）、を加えた6行は全資産の約4割強を占める。二番手グループには株式制商業銀行が続き、そのうち中信銀行（00998）、招商銀行（03968）、中国光大銀行（06818）の3行はそれぞれ中央政府系コングロマリットの傘下にある。地方政府系は上海の浦東発展銀行（600000）、福建の興業銀行（601166）を筆頭に、北京銀行（601169）などがある。少数だが民間資本が多数を占める大手行も存在し、中国民生銀行（01988）や平安保険（02318）傘下の平安銀行（000001）などが代表格。全国展開はこうした大手行に限られる。また、地元に根をおろす地方銀行の上場が進み、重慶農村商業銀行（03618）、重慶銀行（01963）、徽商銀行（03698）、浙商銀行（02016）、天津銀行（01578）、錦州銀行（00416）、盛京銀行（02066）、江蘇銀行（600919）、上海銀行（601229）などが国内外に上場。香港の銀行業界は自由金利を採用し、近年は人民元業務を拡大中。中でも香港ドル発行の資格を持つHSBC（00005）、中銀香港（02388）、スタンダードチャータード（02888）の3行が有名だ。このうち、中銀香港だけが中国銀行の傘下にある中国資本で、残りはロンドンを本拠とする外資。このほか、東亜銀行（00023）などの香港地場系が一定のシェアを持つ。これら大手は中銀香港を除き、16年も業績不振が目立った。

## 主な取扱銘柄：

コード	社名	分類	通貨	売上高 増収率	純利益 増益率	時価総額	コメント
00005	HSBC	ハンセン	米ドル	59,836 ▲15.8	1,299 ▲89.7	1,543,346	世界屈指の総合金融グループ。ロンドンに本部を置き、事業エリアは香港・中国を含む世界中に及ぶ。設立母体である傘下の香港上海匯豐銀行は香港ドルを発券し、地場銀大手の恒生銀行（00011）を傘下に置く。経営不振を受け、17年10月に経営トップが交代。今後の戦略に注目。
00023	東亜銀行	ハンセン	香港ドル	14,850 ▲6.4	3,723 ▲32.6	96,372	香港最大級の地場銀行。東南アジア、米国、英国などにも拠点を設け、個人・法人向け業務、資産運用、保険などを展開。中国事業にも積極的で、外銀としては初めて香港・本土の両方で人民元建債券を発行した実績を持つ。隣接する深セン市の前海地区に積極的に進出している。
00939	中国建設銀行	ハンセン	元	559,860 ▲4.6	231,460 +1.5	1,757,656	国内第2位の商業銀行。四大国有銀行の中で最初の香港上場企業となった。住宅ローンやインフラ建設向け融資などに強く、自己資本比率は競合他社を上回る。不動産市況の影響を比較的受けやすい。不良債権処理と優先株発行による資本強化を目指す。IT大手のアリババと戦略提携で合意。
00998	中信銀行	H株	元	154,159 +5.9	41,629 +1.1	333,366	国有系コングロマリット「中国中信」（00267）傘下の株式制商業銀行。近年はネット金融を強化し、電子商取引トップのアリババやSNS最大手のテンセント（00700）と提携。検索最大手の百度とはネット銀行「百信銀行」を共同設立した。同時に資産圧縮、財務体质の強化を進めている。
01288	中国農業銀行	H株	元	510,128 ▲5.7	183,941 +1.9	1,438,085	総資産などで国内3位。四大国有銀行の一角を占め、農業関連の金融事業で高い競争力を持つ。農村部の広大な拠点網が強みだが、都市部での競争力に課題。不良債権処理の専門子会社を設立したほか、フィンテックの強化に向けネット検索最大手の百度と全面提携している。
01398	中国工商銀行	ハンセン	元	641,681 ▲4.0	278,249 +0.4	2,547,023	中国最大の国有商業銀行。金融機関で世界最大級の時価総額を誇る。国内に広大な支店網・顧客基盤を持ち、幅広く金融サービスを提供。国内では手数料ビジネスの拡大が続く。買収などを通じて国際業務の収益割合が着実に上昇中。また、専門子会社を設立し、不良債権の株式化を進める。
01658	中国郵政儲蓄銀行	H株	元	189,602 ▲0.5	39,801 +14.2	376,792	中国の郵便貯金事業から誕生した国有系の商業銀行。リテール業務を手がけ、営業拠点数と個人顧客数は中国で最も多い。主に個人向けや中小企業への小口融資や証券投資を展開。財務強化を目指して16年にH株上場し、調達資金は同年で世界最大級の規模に。今後はA株IPOを目指す。
01988	中国民生銀行	H株	元	94,684 +0.4	47,843 +3.8	335,528	大手商業銀行で数少ない民営企業。北京市に本店を置き、法人向け業務が主力。中小企業向け融資やマイクロローンを強みとする分、景気低迷の影響も受けやすく、バランスシートの質・安定性に課題。足元では預金減少が続いているが、預金・資本基盤の強化が不可欠といえる。
02016	浙商銀行	H株	元	33,653 +33.9	10,153 +44.0	75,251	浙江省に本拠を置く株式制商業銀行。所得水準が高い浙江省で強固な営業基盤を有し、同省の多くの国有・民営企業が出資する。上海市・江蘇省を含む華東地区が主力で、利益の伸び率は業界上位に入る。最近は自己資本の強化を重視し、香港での優先株発行やA株IPOの計画が進行中。

コード	社名	分類	通貨	売上高 増収率	純利益 増益率	時価総額	コメント
02388	中銀香港	ハンセン	香港ドル	53,129 +0.6	55,503 +105.7	410,224	中国銀行（03988）傘下の香港の大手金融グループ。主力子会社は中国資本唯一の香港ドル発券銀行。オフショア人民元市場の香港で、強固な営業基盤を持つ。親会社からの東南アジア事業の買収や、香港地銀子会社の売却を含む一連の再編が完了。今後はASEAN地域でのシェア拡大を重視。
03328	交通銀行	ハンセン	元	134,871 ▲6.5	67,210 +1.0	506,932	国内5位の資産規模を持つ国有銀行。筆頭株主は財政部。戦略投資家としてHSBC（00005）も出資し、提携関係にある。金融センターの上海市を本拠に華東地域での競争力は高い。傘下の交銀国際（03329）は証券・投資業を担当。ブラジルの老舗銀行を買収するなど、海外事業も重視。
03618	重慶農村 商業銀行	H株	元	21,662 ▲1.0	7,945 +10.0	48,174	重慶市政府系の地方銀行。主に重慶市の県・自治県などで銀行業務を手がけ、店舗網は同市内で最大級の規模。農業関連の金融サービスや中小企業向け融資に強みを持つ。内陸部唯一の直轄市である重慶は政策的恩恵が期待できる。また、A株IPO計画の動向も注目される。
03968	招商銀行	H株	元	209,949 +3.8	62,081 +7.6	800,522	営業収益や手数料収入などで国内5位の商業銀行。国務院系複合企業の招商局集団に属する。広東省に本拠を置き、全国規模で事業展開。リテール事業に強みを持ち、特に富裕層向けサービスを含む手数料ビジネスの収益性は高い。また、資産の質向上に努め、17年上期のリスク資産は減少。
03988	中国銀行	ハンセン	元	485,656 +2.5	164,578 ▲3.7	1,378,943	四大国有銀行の一角を占め、長年にわたり国際・外為業務で業界をリード。香港では中銀香港（02388）を通じて香港ドルを発券するほか、人民元業務を積極的に展開。金融・人民元国際化の代表的銘柄といえる。また、傘下に置く中銀航空租賃（02588）は航空機リースのアジア大手。
06818	中国光大 銀行	H株	元	94,365 +1.1	30,329 +2.7	220,632	国務院系複合企業の中国光大集団に属する株式制商業銀行。クレジットカードなどの手数料ビジネスが強く、17年上期は競合他社を上回る伸びを記録。資産運用サービスも重視し、将来的に資産運用業のスピンドル上場の可能性もある。また、親会社と共同でIT企業への投資を加速している。
000001	平安銀行	深センA株	元	107,715 +12.0	22,599 +3.4	224,809	民営金融コングルマリットの平安保険（02318）で、主に銀行事業を担当。広東省に本拠を置き、前身は深セン發展銀行だった。広東省を中心とする華南地方で高いシェアを持ち、フィンテックに積極的。リテール重視の戦略にシフトし、自動車ローンのシェアは業界有数を誇る。
600000	浦東發展 銀行	上海A株	元	160,792 +9.7	53,099 +4.9	429,667	上海市政府系の地場銀大手。浦東新区に本拠を置き、銀行として最も早く上海A株に上場を果たした。通信大手の中国移动（00941）が資本参加し、提携関係にある。法人向け業務に強み。上海市政府系の国有企業改革の一環で非銀行系の上海国際信託有限公司を買収した。
600015	華夏銀行	上海A株	元	64,025 +8.8	19,677 +4.2	134,566	北京市に本拠を置く株式制商業銀行。資産規模の拡大に努めてきたが、やや高い不良債権比率が課題。首鋼集団、国家電網公司という大型国有企業の傘下にある。戦略投資家だったドイツ銀行の保有株を取得し、16年から損保最大手の中国人民財産保険（02328）が主要株主になった。
600919	江蘇銀行	上海A株	元	31,359 +11.8	10,611 +11.7	107,964	江蘇省に本拠を置く地場銀大手。同省の複数の有名企業が株主に名を連ねる。省内に幅広く支店網を設け、貸出金の8割近くを同省の企業向けが占める。マイクロファイナンスやクレジットカード、ネットバンキングなどの事業も展開。経済発展で先行する江蘇省で強固な営業基盤を誇る。
601166	興業銀行	上海A株	元	157,060 +1.8	53,850 +7.3	418,808	福建省政府系の地場銀最大手。全国規模の商業・投資銀行であり、信託、資産運用、リースなどを含む金融コングルマリットを形成。ネット金融に強く、検索最大手の百度と提携する。リテール部門を強化し、17年上期は個人貸付が大幅に増加。同時にコングルマリット化も進む。
601169	北京銀行	上海A株	元	47,456 +7.7	17,802 +5.7	152,261	北京市の大手銀行。地元政府に加え、オランダのING/バンクが大株主。商業銀行業務を全般的に展開し、法人向けが主力。現在は全国規模の銀行に成長している。資産の質が強みで、不良債権比率は比較的低い。京津冀地区（北京、天津、河北省）開発の関連銘柄の一つ。

\*売上高・純利益などはすべてブルームバーグ提供の数値であり、当社HPと異なる場合がある。すべて16年12月本決算、単位は百万。

\*時価総額は17年10月18日の終値に基づきブルームバーグから算出、単位は百万HKドル。換算レートは1元=1.12HKドル。

## ◆注目されるトピックス ~引き締めと不良債権処理、フィンテックに注目~

### 金融政策は引き締め基調に：

17年7月の全国金融工作会议で中国政府は今後5年の金融行政・政策の柱として、リスク抑制、改革深化、景気貢献を強調。経済のハードランディングを防ぐ前提で、企業、銀行、政府のデレバレッジを目指す構造改革が今後も続こう。さらに中国人民銀行（中央銀行）も“出口戦略”に舵を切り始めた米欧の中央銀行を見据え、着実に引き締めに転換していく見通しだ。銀行業には基本的に逆風となるだけに、経営安定化に向けた各行の取り組みが重要となる。

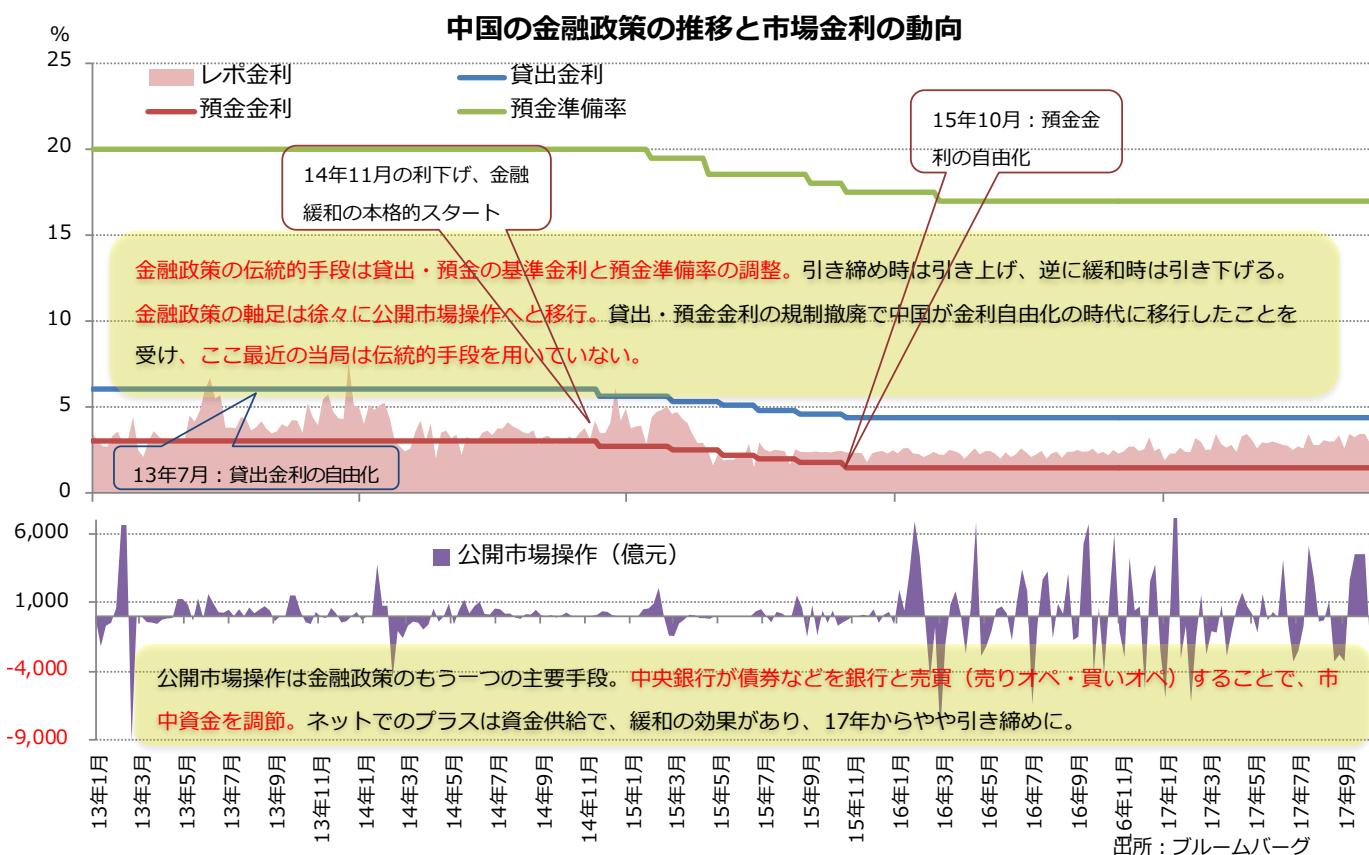
## 不良債権処理の加速は不可欠、各行の資金調達力が重要に：

デレバレッジの進展は不良債権処理の加速を意味する。過去の処理では大規模な公的資金が投入されたが、今回はこれも難しい。各行は収益力・財務力を考慮しつつ、様々な手段を駆使した不良債権処理の加速が求められよう。すでに複数の大手銀は専門子会社を設置。伝統的な減損処理に加えて債務株式化、証券化による売却などが活発化する見通しだ。また債権処理には財務力の強化が不可欠であり、引き続きエクイティファイナンスが増えるとみられる。資金調達力の差がますます重要な。

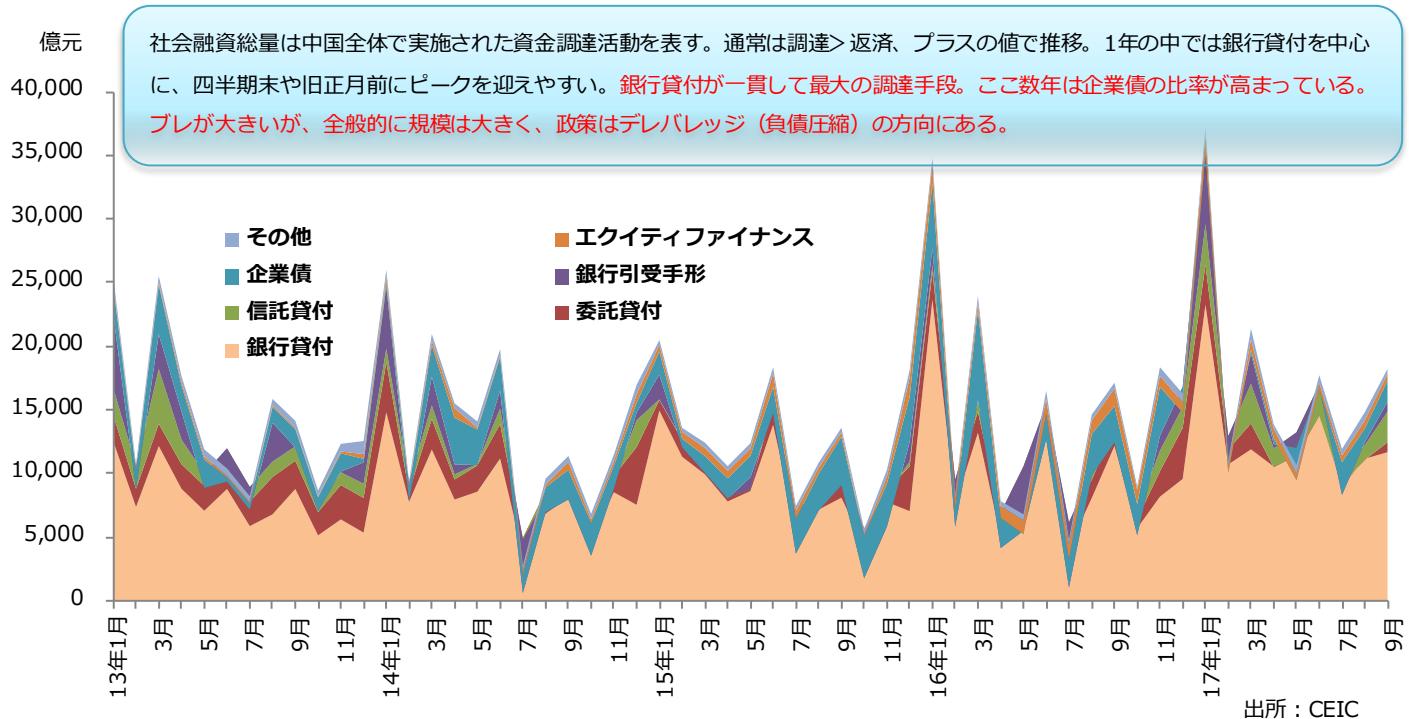
## 業界構造は大きく変化、フィンテックに注目：

従来の銀行業界は規制に守られた“護送船団方式”的性格が強かったが、ここ数年の改革で構造は大きく変化。まず、フィンテック（金融とITの融合）社会の到来によりスマートフォンを通じた決済・預金・融資や仮想通貨が普及し、すでにIT大手のテンセント（00700）、アリババ（BABA）はサービスを充実化させ、その勢いは大手銀を凌駕する程だ。新興勢力の台頭を受け、各銀行にとって手数料ビジネスやフィンテックを中心とする収益強化策の強化が益々重要となろう。この中で国有大手銀は有力IT企業との戦略提携に舵を切っており、17年に入り中国工商銀行と京東（JD.com）、中国建設銀行とアリババ、中国銀行とテンセント、中国農業銀行と百度の提携がそれぞれ成立した。背景にはインクルーシブファイナンス（膨大な貧困層を主な対象とする金融）を国家戦略に採用した当局の政策があり、多数の貧困層へのアクセスがより容易なフィンテックを活用する動きが広がっている。

（中国部・畠田）



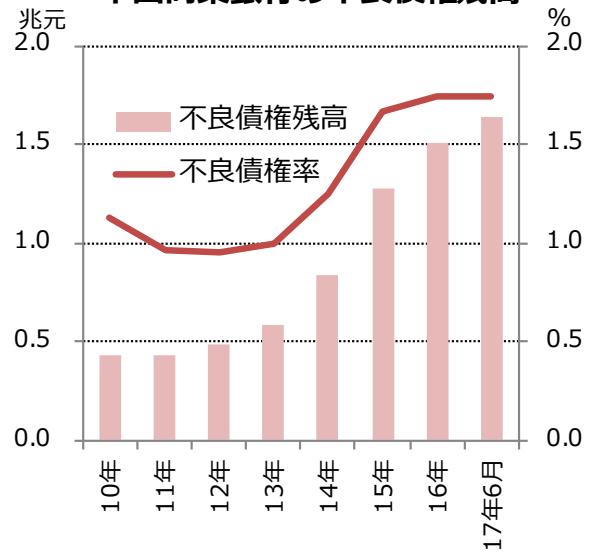
## 中国の社会融資総量の推移



## 中国の銀行融資残高



## 中国商業銀行の不良債権残高



## 主要上場12行の経営指標一覧（17.6期（中間））

項目	中国工商銀行 (01398)	中国建設銀行 (00939)	中国農業銀行 (01288)	中国銀行 (03988)	交通銀行 (03328)	中国郵政儲蓄銀行 (01658)
分類	中央政府直轄の大型国有銀行。交通銀行、中国郵政儲蓄銀行を除く4行で四大国有銀行ともいいう。					
特徴	中国最大の商業銀行。時価総額や自己資本などで世界有数。	中国第2位の商業銀行。インフラ・不動産向け融資に強い。	農業・農村向け融資に強み。IPOの調達額は世界最大級。	国際・外為業務に強みを持つ大手商業銀行	上海市の大型国有銀行。長江デルタ地帯で高いシェアを持つ。	中国版“ゆうちょ銀行”、営業拠点数と個人顧客数は国内で最も多い。
総資産（億元）	<b>255,140</b>	<b>216,921</b>	<b>205,736</b>	<b>194,260</b>	<b>89,308</b>	<b>85,438</b>
貸出残高（億元）	<b>138,659</b>	<b>125,070</b>	<b>104,119</b>	<b>106,507</b>	<b>43,701</b>	<b>33,405</b>
預金残高（億元）	<b>190,212</b>	<b>162,744</b>	<b>161,049</b>	<b>133,682</b>	<b>49,387</b>	<b>78,062</b>
営業収益（億元）	<b>3,622</b>	<b>3,204</b>	<b>2,770</b>	<b>2,482</b>	<b>1,037</b>	<b>1,060</b>
純利息収益率（%）	<b>2.16</b>	<b>2.14</b>	<b>2.24</b>	<b>1.84</b>	<b>1.57</b>	<b>2.31</b>
手数料収入比率（%）	<b>21.17</b>	<b>21.25</b>	<b>15.33</b>	<b>19.81</b>	<b>20.50</b>	<b>6.64</b>
不良債権比率（%,）	<b>1.57</b>	<b>1.51</b>	<b>2.19</b>	<b>1.38</b>	<b>1.51</b>	<b>0.82</b>
自己資本比率（%）	<b>14.46</b>	<b>14.50</b>	<b>13.16</b>	<b>13.41</b>	<b>13.86</b>	<b>11.67</b>

項目	興業銀行 (601166)	招商銀行 (03968)	浦東発展銀行 (600000)	中国民生銀行 (01988)	中信銀行 (00998)	中国光大銀行 (06818)
分類	全国展開する株式制商業銀行と地銀大手					
特徴	福建省政府系の大手銀。金融多角化を進める。	深セン市に本拠を置く商業銀行。手数料ビジネスに強み。	上海市政府系の銀行。上海自由貿易区を本拠とする。	数少ない民営銀行。新規業務の開発・展開力は定評。	中堅の商業銀行。コーポレートバンキングが強い。	クレジットカード、資産運用の業務で高い競争力。
総資産（億元）	<b>63,847</b>	<b>61,997</b>	<b>59,154</b>	<b>57,672</b>	<b>56,512</b>	<b>40,335</b>
貸出残高（億元）	<b>22,847</b>	<b>35,399</b>	<b>30,275</b>	<b>27,063</b>	<b>30,911</b>	<b>19,644</b>
預金残高（億元）	<b>30,082</b>	<b>41,423</b>	<b>31,725</b>	<b>30,107</b>	<b>34,535</b>	<b>22,713</b>
営業収益（億元）	<b>681</b>	<b>1,127</b>	<b>834</b>	<b>705</b>	<b>766</b>	<b>463</b>
純利息収益率（%）	<b>1.75</b>	<b>2.43</b>	<b>1.82</b>	<b>1.40</b>	<b>1.77</b>	<b>1.52</b>
手数料収入比率（%）	<b>26.88</b>	<b>30.84</b>	<b>28.98</b>	<b>34.70</b>	<b>29.72</b>	<b>34.51</b>
不良債権比率（%,）	<b>1.60</b>	<b>1.71</b>	<b>2.09</b>	<b>1.69</b>	<b>1.65</b>	<b>1.58</b>
自己資本比率（%）	<b>11.87</b>	<b>14.59</b>	<b>11.84</b>	<b>11.91</b>	<b>11.76</b>	<b>11.86</b>

出所：PWC、各社財務諸表等

## 当社の概要

商号等 内藤証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第24号  
 本店所在地 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1丁目5番9号 主な事業 金融商品取引業  
 資本金 30億248万円(平成29年3月末現在) 設立年月 昭和18年4月  
 加入協会 日本証券業協会  
 指定紛争解決機関 特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター  
 連絡先 ご質問がございましたら、下記部支店までご連絡ください。

## リスク等重要事項のご説明

### リスクについて

〈株式〉株価および為替相場(特に外国株式の場合)の変動等により損失が生じるおそれがあります。  
 〈債券〉債券は市場金利の動向や発行者の信用状況等によって価格が変動するため、損失を生じるおそれがあります。さらに外国債券は為替相場の変動などにより損失が生じる場合もあります。  
 〈投資信託〉組み入れた株式や債券など、有価証券の価格変動および為替相場の動向(特に外国通貨建て有価証券等を投資対象としている場合)等により投資元本を割り込むおそれがあります。  
 〈株価指数先物・同オプション〉対象とする株価指数の動きにより損失が生じるおそれがあります。加えて、建て玉代金に比べ少額の委託証拠金での取引が可能であり、株価指数の変動によっては損失額が委託証拠金を上回る(元本超過損)おそれがあります(オプション買方の場合は買付代金とコストの合計額に限定されます)。

### 手数料について

〈株式〉①対面取引の場合、i)国内株式は約定代金に対して最大1.15%(税抜き以下同じ、但し最低2,500円)。ii)現地委託取引による外国株式は売買金額に対し最大0.80%(但し買付け時のみ最低500円)の国内手数料をいただきます。加えて、現地手数料として米国株式で外貨約定代金の最大0.50%、香港株式で同0.25%(最低50香港ドル)、上海・深セン株式で同0.50%必要となるほか、各証券市場によってSEC Fee、印紙税や取引所税等の費用が掛かる場合があります。また、為替に関しては内藤証券が決定したレートを用います。iii)国内店頭(相対)取引による外国株式は当社提示の取引価格の中に手数料等(諸費用を含む)をあらかじめ加味しております。また為替は上記同様、当社為替レートを用います。②コールセンター取引の場合、i)国内株式は約定代金に応じて最大31,000円(最低2,500円)。ただ、月間取引回数等による割引きあり。ii)外国株式は対面取引と同様です。③インターネット取引の場合、i)国内株式は手数料プランが複数に分かれしており、この欄に表示するのが難しいため、詳細は当社HP(<http://www.naito-sec.co.jp/>)にてご確認ください。ii)現地委託取引による外国株式は売買金額に対して最大0.40%(但し買付け時のみ最低500円)の国内手数料をいただきます。また現地手数料並びに為替レート等は対面取引と同様です。なお、インターネット取引では米国株式及び国内店頭取引による外国株式の取り扱いを行っていません。

〈債券〉国内債券については売買委託手数料表をご確認ください。また、相対取引による外貨建て債券の売買に関しては当社が提示する価格の中に手数料等(諸費用を含む)をあらかじめ加味しております。円貨と外貨を交換する際には、外為市場等の動向をふまえて当社が決定した為替レートを用います。

〈投資信託〉商品により異なりますので、詳細は「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧下さい。

〈株価指数先物・同オプション〉i)株価指数先物は約定代金に対して最大0.08%。ii)株価指数オプションは約定代金の最大4.0%(但し最低2,500円)。

◆本資料は、公表されたデータ等信頼できると考えられる情報に基づいて内藤証券が作成し、また記載された見解等の内容は全て作成時点のもので時間の経過とともに不正確となる場合があり、過去から将来にわたって、その正確性・完全性を保証するものではありません。内容は今後予告なく変更することがあります。◆本資料に基づいた投資によって発生する損益は全てお客様に帰属します。内藤証券は、故意または重大過失がない限り、責任を負いません。◆本資料により提供される情報の著作権等の知的財産権は、引用部分を除き、全て内藤証券に帰属します。お客様は、事前に内藤証券の書面による同意なく、本資料の内容及び情報を、複製、譲渡、修正、変更または転送等の行為をすることができません。

本社 大阪市中央区高麗橋1-5-9 ☎ 06-6229-6511

### 東日本地区

東京第一営業部	☎ 03-3666-5541	金沢文庫支店	☎ 045-780-5021
湘南サテライト	☎ 0466-55-3161	足利支店	☎ 0284-22-1234
東京第二営業部	☎ 03-3666-7137	伊勢崎支店	☎ 0270-25-3780
神田支店	☎ 03-6361-9191	伊勢崎駅前サテライト	☎ 0270-25-3780
三鷹支店	☎ 0422-71-1251	焼津支店	☎ 054-621-1311

### 西日本地区

本店営業部	☎ 06-6229-6904	和歌山支店	☎ 073-423-6211
住道支店	☎ 072-889-5236	有田支店	☎ 0737-52-7110
寝屋川支店	☎ 072-822-6333	田辺支店	☎ 0739-22-4678
金剛支店	☎ 072-365-1901	新宮支店	☎ 0735-22-8151
樋原支店	☎ 0744-28-4711	高松支店	☎ 087-822-0105

### インターネット

☎ 0120-7110-76

[succes-s@naito-sec.co.jp](mailto:succes-s@naito-sec.co.jp)

### コールセンター

☎ 0120-20-9680

 内藤証券